

## 農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

|     |            |
|-----|------------|
| 局 名 | 農村振興局（北海道） |
|-----|------------|

|       |            |        |             |
|-------|------------|--------|-------------|
| 都道府県名 | 北海道        | 関係市町村名 | びばいし<br>美唄市 |
| 事業名   | 地域用水環境整備事業 | 地区名    | びばい<br>美唄   |
| 事業主体名 | 北海道        | 事業完了年度 | 平成17年度      |

## 〔事業内容〕

事業目的： 本地区の農業水利施設である北海幹線用水路は、地域住民から身近な水辺空間や生活用水として永く親しまれてきたが、国営かんがい排水事業空知中央地区で市街地内の区間を改修し暗渠化することで用水路敷地は空き地空間となるため、その有効活用が求められていた。

このことから、用水路敷地の有効活用を図るため、親水・景観保全施設及び利用・保全施設等を整備することにより、農業水利施設の保全管理に資するとともに、施設の有する水辺空間等を利用し、安全で潤いある快適な生活環境を創造することを目的として本事業を実施した。

主要工事：親水・景観保全施設1式、利用・保全施設1式

総事業費：1,204百万円

工期：平成6年度～平成17年度（計画変更：平成13年度）

関連事業：国営かんがい排水事業「空知中央地区」（昭和54年度～平成20年度）

## 〔項目〕

ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

1. 親水・環境保全のための施設

○ 利用者数

事業完了後は、地域住民の散策の場として利用されているほか、通勤・通学やジョギング・散歩のコースとしたり、健康増進のためのウォーキング会の開催や小学校の遠足などの目的で、施設が利用されている。

（ウォーキング会参加者）

平成22年度 6月：24人 7月：20人 9月：20人

平成23年度 6月：27人 9月：22人

（小学校遠足利用者）

平成23年度 120人程度

（保育園児等の利用者）

平成23年度 2,400人程度

（出典：美唄市聞き取りによる）

イ 事業効果の発現状況

1. 事業の目的に関する事項

用水路暗渠化区間の空き地空間においては、親水・景観保全施設を整備して水辺空間や親水空間を創出したことで、地域住民の憩いの場として、多くの市民に利用されている。

また、開水路区間においては、管理用道路等の整備により、用水路の効率的かつ適切な保全管理が行われるとともに、地域住民の農業施設に対する認識を深める機会となっている。

2. 土地改良長期計画における施策と目指す成果等の確認

・田園空間の再生・創造と共生・循環を活かした個性豊かで活力ある農村づくり

本事業では、関連事業である国営かんがい排水事業空知中央地区で改修された用水路に附帯して親水・景観保全施設を造成することで地域用水機能の増進を図っている。

また、美唄市の都市計画マスタープランでは、市街地における北海幹線用水路を憩いと潤いの場と位置づけて緑道化整備を進めるとされており、本事業で整備した親水・景観保全施設がその一翼を担うなど、個性豊かで活力ある農村づくりに貢献している。

#### ウ 事業により整備された施設の管理状況

本事業で整備した親水・景観保全施設や利用保全施設は、美唄市及び市民ボランティアである「美しきまちづくりサポーター」等の協力により定期的に草刈りや清掃作業などが行われ良好に管理されている。

#### エ 事業実施による環境の変化

本事業により水辺空間及び緑地施設等が創出され、地域住民の憩いの場となっている。また、水辺空間の整備や緑地施設等の整備を行ったことにより、新たな自然環境が創出されている。

#### オ 社会経済情勢の変化

##### 1. 社会情勢の変化

美唄市の総人口は減少傾向にある。

[総人口]

美唄市：33,434人（平成7年）→26,034人（平成22年）

全ての産業について就業人口は減少している。

[産業別就業人口]

（美唄市）

第1次産業：2,566人（16.6%）（平成7年）→1,838人（14.6%）（平成17年）  
99億円（平成7年）→78億円（平成17年）

第2次産業：4,385人（28.4%）（平成7年）→2,890人（23.0%）（平成17年）  
243億円（平成11年）→164億円（平成17年）

第3次産業：8,472人（54.9%）（平成7年）→7,740人（61.5%）（平成17年）  
356億円（平成11年）→290億円（平成17年）

（出典：産業別人口は国勢調査、生産額は農林水産統計年報、工業統計年報、商業統計年報）

##### 2. 地域農業の動向

耕地面積の変動は比較的微少であるが、農家戸数及び農業就業人口の減少が顕著である。また、農家1戸当たりの経営面積については増加傾向が見られる。

|             | H7    | H17   | H22   |
|-------------|-------|-------|-------|
| 耕地面積（ha）    | 9,041 | 8,633 | 8,978 |
| 農家戸数（戸）     | 1,296 | 922   | 790   |
| 農業就業人口（人）   | 2,680 | 2,307 | 1,668 |
| 認定農業者数（経営体） | 35    | 515   | 518   |
| 経営面積（ha/戸）  | 7.0   | 9.3   | 11.4  |

（出典：農林業センサス、認定農業者数は北海道農政部調べ）

#### カ 今後の課題等

施設の老朽化に伴い維持管理費の増嵩が見込まれることから、計画的に施設の補修や修繕を進める必要がある。

#### 事後評価結果

・ 水辺空間や緑地施設等を整備したことで、地域住民の憩いの場として、多くの市民に利用されるなど、個性豊かで活力ある農村づくりに貢献している。

第 三 者 の 意 見

- ・ 事業目的に沿った効果の発現が認められる。  
なお、事業効果の発現状況において、自然環境に関する事項についても評価することが望まれる。

